

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402096		
法人名	有限会社 山崎メディカルサービス		
事業所名	グループホーム 琴音 (1ユニット・2ユニット)		
所在地	〒803-0844 福岡県北九州市小倉北区真鶴1丁目12番10号 093-562-5750		
自己評価作成日	平成28年01月10日	評価結果確定日	平成28年03月05日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>市街地にありながら生活環境が良い事 交通の便が非常に良い 利用料金がリーズナブルであり 入居しやすい事 又 ホーム自体も10年経過し 地域との交流も盛んで 職員も又経験豊かであり なじみやすい雰囲気をもっとしている</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成28年02月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「琴音」は、認知症高齢者が住み慣れた地域の中で、家族や親しい人達に囲まれて、馴染みの生活支援が出来るように、14年前に開設したグループホームである。ホーム横にある板樋川の桜並木や、広い公園を散歩コースにして、利用者の元気な一日が始まっている。母体医療法人の往診体制が確立し、訪問看護師と介護職員が、利用者の小さな変化も見逃さず、早期発見、治療に繋げ、充実した医療連携が図られている。利用者の食べたい物を聞きながら、調理上手な職員が作る手料理は、愛情たっぷりで、味や彩り、盛り付けに拘り、健康の源になっている。家族の面会も多く、職員と話す機会を設け、家族とコミュニケーションを図り、何でも話し合える関係が築かれている。また、地域福祉の拠点として、認知症介護の啓発活動や、相談事業に取り組む「グループホーム 琴音」である。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時の新人研修で説明し 又現場でも生かせるように掲げている	ホームの見やすい場所に理念を掲示し、新人研修ではしっかりと理念についての説明を行っている。また、管理者は、毎月のミーティングの度に、仕事の一つ一つが理念に繋がっている事を伝え、利用者を尊敬し、一人ひとりの生活のリズムに合わせる事を特に大切にしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入りそこを通じて地域交流が来ている	自治会に加入し、公園の清掃や花壇の植え替え、自治会主催の花見、秋の運動会等、地域の行事に積極的に参加している。また、近隣住民との関係作りを心掛け、目の前の公園を散歩する時には、必ず挨拶を交わし日常的な交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流を通してホームの利用者の理解を深めている		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会との情報交換や地域包括の方との情報交換を通してサービス向上をめざしている	会議は、町内会長、副会長、地域包括支援センター職員の参加を得て、2ヶ月毎に年6回開催し、ホームの運営や取り組み、課題、ヒヤリハット、事故の報告を行い、参加委員からは、質問や情報提供を受け、それらをサービスの向上に活かしている。	現在は、ホームからの報告と参加委員からの情報提供が、会議の主な内容となっているので参加委員の増員を図り、ホームの課題、地域の高齢者の問題を共に考える機会として、会議を活かしていく事を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して 取り組んでいる	行政主催の研修や集団指導に参加し、疑問点や困難事例について相談したり、情報交換を行いながら連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員が毎回参加し、ホームの現状を伝え、助言や情報提供を受け、協力体制を築いている。また、月1回の介護相談員の受け入れを行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職時の新人研修には必ず研修を行い機会あるごとに研修会を開催している	新人研修を始め、不定期ではあるが身体拘束についての研修を実施している。何が虐待で何が拘束なのかについて、計画作成担当者が中心となって勉強会を行い、特に言葉遣いについては注意を促している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを通じ事例を通して研修会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修や内部研修を通し活用できるように支援している	現在、権利擁護の制度を活用している利用者はいないが、外部、内部研修で学ぶ機会を設け、制度の重要性を周知している。制度に関する資料、パンフレットを準備し、必要時には、本人、家族と話し合い、関係機関と相談し、利用者の権利や財産が、不利益を被らないように取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約については、十分な説明を行いトラブルもなくしている		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見や要望を取り入れる体制が出来ており反映させている	職員は日常の関わりの中で、利用者の意見、要望の把握に努めている。家族の面会は多く、少なくとも月に1回は必ず面会があり、その時に利用者の状態の報告を行い、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させている。また、「ふれあい通信」を家族に送付し、利用者の健康状態、暮らしぶりを伝えている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングを開催し職員の意見を聞いており反映させている	毎月1回、ユニット毎にミーティングを開催し、利用者一人ひとりの介護計画の確認と業務連絡、勉強会等を行っている。意見を言いやすい雰囲気の中、活発な意見交換が行われ、出された意見は速やかに運営に反映できるよう努力している。また、これからのホームの在り方について、職員一人ひとりの考えを聴くために、現在、個人面談を行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境を改善し 職員定着に向けて努力している		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢など関係なく採用に当たっては配慮している	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考え方を重視している。採用後は、新人研修や法人内研修の受講により、質の向上を目指している。また、管理者は、職員の能力や特技を把握し、役割分担や勤務体制に配慮する等、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念にも掲げている通り 普段から尊厳に関して教育、啓発に向けて努めている	利用者の人権を尊重する事の周知のため、法人の全体研修の受講や理念の確認を行っている。これらの取り組みにより、職員一人ひとりが意識して、利用者一人ひとりの暮らしのリズムを尊重した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機 会の確保や、働きながらトレーニングしていくこ とを進めている	職員のスキルアップの為キャリアに応じての研修や 役割など配慮が出来ている		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	外部研修を通じて他事業者施設との交流を深めて いる		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人 の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティングを通し介護プランに沿って普段の生活 から不安や要望などを探しプランに反映させるよう にしている		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関 係づくりに努めている	まず入居時 入居後と家族の要望や不安を聞き信 頼関係を築けるようにしている		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	家族とは、入居前より話し合いの機会を多く求め本 人の状態を考えたサービスを提供できるように努め ている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段のコミュニケーションを通じ緊張感のない任芸 関係を築けるように努めている		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人 を支えていく関係を築いている	家族の面会の機会が多いためどうしても家族の協 力なしでは、成り立たない部分が多いので良い関係 が出来つつある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の状態に左右される部分もありますが、家族、友人、場所など途切れないよう関係を築く支援は出来ている	面会に来やすい雰囲気を中心、家族を始め、友人、知人の面会が多く、入居によってこれまでの関係が途切れてしまわないよう支援に努めている。また、家族の協力を得て、馴染みの場所に出かける事もある。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の潤滑油であり話し相手でもあるという自覚のもとで支援が出来ている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族の必要に応じて支援、相談が出来ている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が暮らしやすい事、主体であることを基本的に状態に応じて支援が出来ている	日常の関わりの中で、たくさん会話を交わす事を心掛け、利用者の思いや意向を聴き取る努力をしている。意思表示が困難な利用者については、表情や仕草から気持ちを汲み取ったり、家族にこれまでの生活歴等を聞く等して相談し、あくまでも、利用者を中心に考える事を徹底している。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、利用者の生活歴、環境などを把握し、それぞれのサービスに反映できるように努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し情報を共有しながら現状把握に努めている		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングは、個々の利用者について話し合いが出来ておりそれを介護プランに反映させている	利用者、家族の希望を聴いて、毎月のミーティングの中で、職員間で検討し、課題を明確化して、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいる。利用者の状態に変化があった場合は、その都度、家族、主治医と話し合い、介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間の情報の共有は、必須であり個別記録も又同様で 職員は、常にそのことについては、意識するように 心掛けている		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のその時どきのニーズにこたえられるように取り組みが来ている		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の心身の力を把握しそれが発揮できるように支援が来ている		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者の希望に沿い 受診が出来るように支援が来ている	現在、全員が母体医療法人の医師が主治医となり、毎朝、健康状態をファックスで病院に伝え、変化がある場合は相談出来る体制が整っている。月2回の往診と訪問看護との連携、他科受診への同行等、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関や訪問看護などの関係作りも含めて職員は、普段の生活の観察で気付いた事を相談、報告し支援につながる様に心掛けている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院については、早期の完治をめざし利用者の状態が回復できるように医療機関とともにそうした関係作りを行っている		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期及び重度化に関して入居時に家族にホームの方針を説明している 医療機関との連携も同様に行い支援が出来るように努めている	契約時に重度化や終末期の指針を基にホームの方針を説明し、その時点での利用者、家族の希望を聴いている。重度化に伴い、主治医を交えて家族との話し合いを重ね、出来るだけ希望に沿えるよう努力している。これまでに、看取りの経験もあり、ホームとしては看取りを行う事を掲げ、体制作りに取り組む事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変対応としては、年1回にAED,心肺蘇生訓練を行っている応急手当などは、外部研修にて行っている	/	
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練等の一環として利用者全員の避難訓練を毎年行っている。その際も地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施している。毎回、利用者全員を目の前の公園に避難誘導する訓練を実際に行い、大変である事を体験により実感している。また、ホームがマンションの2階にある事から、同じマンションの住民や近所の方にも、非常時の協力を要請している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修会やミーティングなどで事例を参考に言葉かけや対応の確認を行っている	理念に人権の尊重を掲げ、利用者一人ひとりの人格を尊重した対応に努めている。特に、利用者を敬い、言葉遣いや対応に気を配り、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については周知を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の想いや希望を把握し自己決定できるように支援している	/	
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体のホームを目指しており支援が出来る	/	
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪から整容と身だしなみに気配りが出来ている	/	
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、入居者の状態に応じて手伝いをお願いしている	利用者の状態や嗜好に配慮しながら、職員による手作りの美味しい食事をユニット毎に提供している。対面式の台所から聞こえる包丁の音や、漂ってくる美味しそうな匂いによって、食べる事への意欲を高めている。また、テーブル拭き等、利用者の力に応じて手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分、食事量をチェックし健康状態を把握している		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎予防という事もあり 毎食後 歯磨きを心掛けて支援できている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	確実な排泄誘導を心掛け自立できるように心掛けている	利用者一人ひとりの排泄リズムを把握し、その日の排泄状況や水分量から判断し、適時、トイレ誘導を行っている。夜間についても状況に応じて、パット、リハビリパンツ、オムツをその方に合わせて的確に使用し、負担軽減と、利用者の快適さにも配慮するよう努力している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	普段の食事やおやつなど 内服も含めて 通じがスムーズに出来るように支援している		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員のシフト上昼間の入浴となっているが、それぞれに合わせて気持ち良く入浴できるように支援している	現在は、1日3人ずつの入浴支援を行なっているので、2日おきの入浴となっている。利用者の体調や気分を見ながら、ゆっくりと時間をかけて入浴してもらい、利用者との1対1の大切なコミュニケーションの場となっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者それぞれの生活リズムを把握し支援している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服について理解できるように内服一覧表を置き確認できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の想いや気持ちを尊重し支援できている		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を考えてなるべく外へ出かけるように支援が出来ている	目の前の公園や板櫃川沿いの桜並木が、日常的な散歩コースであり、利用者の体調に配慮しながら積極的に外に出ている。季節の花見、地域の行事、ドライブ等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。また、家族と一緒に買い物や外食に出かける事もある。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本お金の管理は、ホームでしているが、入居者によっては、お金を持てるように支援している		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由に出来るように支援が出来ている		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、整理整頓を心掛け入居者が落ち着けることを常に考え配慮している	ビルの2階にあるホームであるが、整理整頓を心掛け、狭い空間も、職員の創意工夫で、居心地の良い共用空間となっている。また、壁紙を張り替え、床の清掃を隅々まで行う等、利用者が心地よく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本ホーム内では、自由に暮らせる支援を心掛けている		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家族の方に居室には、なじみの物とお願している それにより 落ち着いた空間で過ごせる様に 又早く馴染めるように工夫している	居室は、利用者それぞれの馴染みの物(ソファ、鏡台、筆筒、仏壇、家族の写真等)を持ち込んでもらい、本人が安心出来る空間作りを行っている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の力を把握し少しでも自立した生活が送れるように支援が出来ている		